

# ひょうご農地・水ニュース

本年度も県内約1900組織で、多面的機能支払交付金を活用した農用地、水路をはじめとする地域ぐるみの活動が行われました。

今号では、草刈りをテーマに開催した「ひょうご水土里のふるさとフォーラム」や活動組織研修会を中心に記載しています。

## ••••• CONTENTS •••••

- P.2～4 第12回ひょうご水土里のふるさとフォーラム
- P.4～6 活動組織研修会を開催しました！
- P.7 優良事例地区の取組が紹介されました！
- P.8 活動組織の広域化の状況について
- P.8 活動組織の抽出検査について

兵庫県多面的機能発揮推進協議会  
ホームページ



<http://hyogo-nouchimizu.com/>

## 第12回ひょうご みどり 水土里のふるさとフォーラム

草刈りも新時代へ！  
・草刈りはもっとラクになれる・

【とき】  
令和元年  
11月28日（木）  
【ところ】  
兵庫県公館



第12回目となる本年度は、過疎化や高齢化が進むなか、農業の継続や農村環境を守るために大きな課題となっている「草刈り」に焦点をあてて、草刈り作業の省力化や新たな体制づくりなど、これから「草刈り」をテーマに開催しました。

また、最新草刈機の展示会も同時開催され、県内外から多くの方にご来場いただきました。

### セレモニー



荒木副知事



星野委員長

荒木副知事による主催者挨拶では、「農業のスマート化を進め、基幹産業化を図っていきたい。そして農山村が元気になっていく、そういう兵庫県の農政を進めたい。」といったお話がありました。

次に、平成30年度に特に優れた取組を実施した活動組織に対して「みどり豊かなふるさと大賞」（知事賞1組織、委員長賞3組織）の表彰が行われ、代表者に賞状と記念品が贈呈されました。

豊かなふるさとづくり推進委員会委員長である星野京都大学大学院教授からは、「各地域がそれぞれ個性のある活動を展開しており、『豊かなふるさとづくり』という一番大事な点を実践されている」と受賞地区を称える講評があり、今後のさらなる活動にエールが送られました。

### 事例発表



知事賞を受賞した内町環境保全組合の二位氏より、活動事例の発表がありました。

地域資源保全管理構想の検討を契機としたワークショップの開催や、ホタルを見る会の実施など、地域みんなで話し合い、一体となって活動している様子を発表していただきました。

また、営農においては、昨年営農組合を法人化し、内町の豊かな自然環境が守られ次世代に引き継げるよう

するなど、地域の将来を見据えた取組についてご紹介いただきました。



<b>委員長賞</b>	内町環境保全組合（豊岡市）
<b>知事賞</b>	豊かな農村環境づくり分野
【地域づくり分野】	岡農地保全会（上郡町）
【地域農業活性化づくり分野】	岩戸農地と里山を守る会（市川町）
【野上野地区あけぼの会（丹波市）】	野上野地区あけぼの会（丹波市）

## パネルディスカッション

「草刈りも新時代へ！」をテーマに、草刈りの省力化や地域での草刈りの体制づくりについて、先進的な取組を行っている組織・団体を迎え、ラジオ関西 谷パーソナリティの進行により、パネルディスカッションが行われました。ここでは、その模様を抜粋してご紹介します。

【コーディネーター】  
ラジオ関西パーソナリティ

【コメンテーター】

京都大学大学院教授

【パネラー】

(株)Amnak(養父市)

能座地区地域資源保全隊(養父市)

(有)夢前夢工房(姫路市)

中谷農事組合法人(豊岡市)

兵庫みどり公社

谷五郎

星野敏

藤田彰

高階博

衣笠愛之

木下義明

藤本英樹

(以上敬称略)

### ◎草刈り作業の省力化について。

高階氏 養父市能座地区は5年前までは多くの休耕田を抱えていたが、農業特区となったことで(株)Amnakが参入、地域住民と協力し、ほとんどの田がよみがえった。現在はスマート農業を推進しており、リモコン式の草刈機を導入、作業の軽減につながっている。



藤田氏 この草刈機は、大きな法面



もスピーディーかつ安全に刈ってくれ、初心者でも操作できるのがメリット。機械導入にあたっては、その地域に合った機械の選択が大事。

衣笠氏 姫路市夢前町宮置地区では、発想の転換で、草刈りが面倒なら草刈りゼロ化を目指そうと、官民連携で防草シートを開発、活用している。多面的機能支払の交付金で購入でき、設置も簡単。基盤整備と併せて導入し、未来型の農業を推進していきたい。



### ◎地域での草刈りの体制づくりについて。

木下氏 豊岡市中谷地区では、地域の若手農家や非農家を「草刈隊」としてチラシを作成して募集した。ムラの役にも立つということで、予想以上に多くの若者が参加してくれ、工夫して活動し、農業に関心を持つ機会に繋がっている。



藤本氏 まずは地域での話し合いが大事。「人・農地プラン」の作成等、担い手と地域の役割を整理して、分散した農地の集積や草刈りの共同作業化について話し合い、将来にわたって農業を継続できる仕組み「いきいき農地バンク方式」を進めていくことが重要。

### ◎最後にまとめを。

星野氏 農業者の減少が避けられない中、農村を維持していくには、負担の大きな「草刈り」を「作業の省力化」と「体制づくり」の2本柱で取り組むことが必要。



作業の省力化については、各地域の条件に合ったものを選択することが重要。

体制づくりは、地域の合意形成を経て、草刈り作業を地域の共同作業に位置づけることが必要で、そのためにもまずは地域でよく話し合うことが大事だ。



## 草刈機展示会

フォーラム会場外では、最新草刈機、防草・除草アイテムの展示会が開催されました。リモコン式の草刈機をはじめ、法面に設置する足場や防草シートなどが紹介され、来場された方は機械についてメーカーの担当者に「機械の値段はいくらか?」「リースできるか?」「耐用年数は?」など質問し、熱心に見学されていました。



### ★草刈機を導入する場合の留意事項★

- ・目的・・・使用する場所、活用の頻度、機械の能力、金額に応じた省力化を見込めるか
- ・現地の状況・・・法面勾配や進入路、機械を運ぶ手段（特に法面勾配と機械の適用勾配に注意）
- ・メンテナンス・・・保守や保管体制（耐用年数7年は適切に管理が必要、高額機械は財産管理台帳作成）

### ★交付金を活用する場合の注意事項★

- ・集落の合意はできているか、他のやるべき活動に支障はないか
- ・高額機械等導入に伴う市町との協議
- ・リースと購入を比較し、検討した上で導入
- ・高額な機械で単独で導入が難しい場合は、他組織と共同でのリースや購入も検討

## 活動組織研修会を開催しました！

県内活動組織を対象として、活動の有効性や向上及び問題解決を図ることを目的に、研修会を開催しています。今年は草刈りをテーマに、作業の省力化や体制づくり、地域資源保全管理構想や人・農地プラン、農地管理について啓発しました。大変好評で県内5会場で約1700名に参加いただきました。

#### 【但馬会場】

令和元年12月11日（水）但馬地域地場産業振興センター（参加298名）

#### 【小野会場】

令和元年12月17日（火）うるおい交流館エクラ（参加457名）

#### 【三田会場】

令和元年12月20日（金）三田市総合文化センター（参加274名）

#### 【姫路会場】

令和2年1月16日（木）姫路市文化センター（参加361名）

#### 【洲本会場】

令和2年1月30日（木）洲本市文化体育館（参加265名）

ここでは、研修内容を抜粋して簡潔にまとめてご紹介いたします。



## 1. 地域資源保全管理構想について

今年度から大半の組織で新たな期間が始まったことから、必須となる地域資源保全管理構想（以下、構想）について啓発。

構想とは何か？構想づくりの進め方、ポイントについて啓発しました。

5年後の将来を想定して、入り作や土地持ち非農家なども参加して、保全体制や地域農業について地域でよく話し合いを行って、構想を作成することが大切です。構想が実現できるよう活動しましょう。

### 構想づくりのポイント

- ①5年後も活動が継続される事が前提  
構想づくりが最も重要  
農業も保全活動も一心同体
- ②担い手農家、土地持ち非農家  
を構成員に位置づけて、話し合う
- ③地域農業の『担い手』の育成・確保  
人・農地プランを活用

## 2. 人・農地プラン策定及び農地管理の今後について

地域農業を継続する上で欠かせない、人・農地プランを作成するまでのポイントや農地中間管理事業を活用した担い手への集積・集約や集落営農の法人化等について啓発しました。



### 担い手への農地集積・集約化を進めるための2つの取組

#### 人・農地プラン

集落・地域で、人と農地について話し合い（現状分析と将来像の検討など）、未来の設計図を見える化する。

#### 農地中間管理事業

集落・地域の話し合いを通じて、定めた方向性に従い、担い手へ円滑に農地の集積・集約化を進める。

### 農業を維持していくために

人・農地プラン → 農地集積 → 担い手の規模拡大

集落営農 → 集落営農の法人化 → 人材雇用

人・農地プラン 中間管理事業 → 企業参入

人・農地プラン 管理構想 → 地域での役割分担

今後中心となる経営体は誰か、中心となる経営体は確保されているか、将来の農地利用のあり方、農地中間管理機構の活用方針、近い将来の農地の出し手の状況、中心となる経営体とそれ以外の農業者の役割分担を踏まえた地域農業のあり方などを集落で話し合い、まとめます。

- 農地の有効利用、農業経営の効率化や経営組織（者）の所得向上に繋がる
- 農村地域の健全な維持発展に繋がる

## 3. あぜの草刈り対策について

農業農村の継続に大きな課題となっている草刈りについて、今後も高齢化や作業人員の減少が避けられない中、作業自体の省力化と非農家地域住民の参画等による新たな体制づくりが必要な点を啓発しました。



### 草刈り作業の省力化

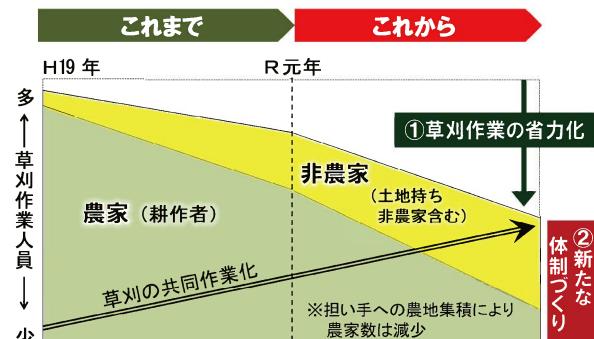
#### 作業の効率化 軽減

- ①傾斜用草刈り機の導入
- ②高刈りによる回数削減
- ③足場設置による効率化
- ④草食動物による除草
- ⑤抑草剤の散布

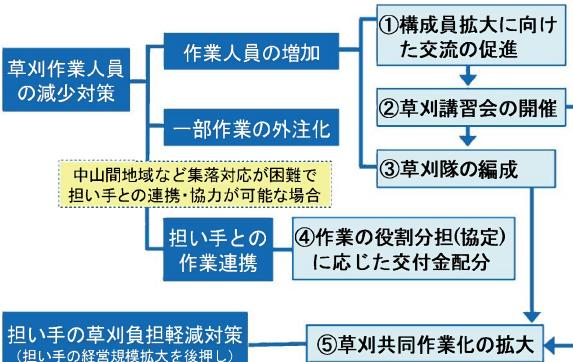
#### 草刈り面積 の縮小

- ⑥被覆植物の植栽  
(グランドカバー)

### これからの『草刈り』を見直そう！

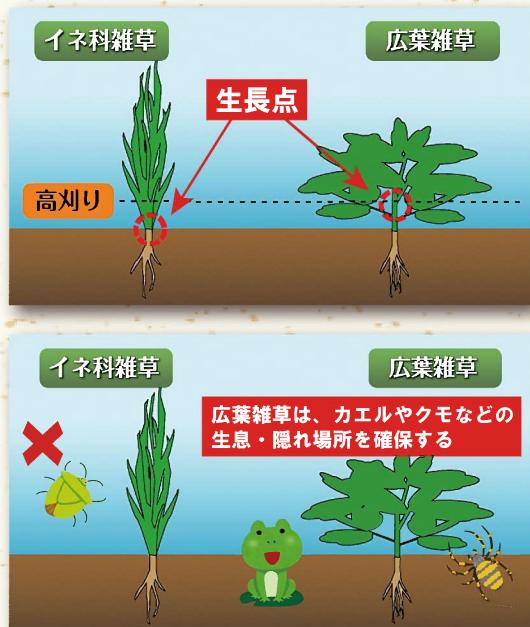


### 新たな草刈り体制づくり



## 4. 高刈りによる草刈作業の省力化について

草刈りの省力化のうち、手軽に取り組むことができる高刈りについて、（株）北村製作所 高刈商品共同提案者 清水溥万 氏（島根県高畠環境ファーム清水農園代表）にご講演いただきました。

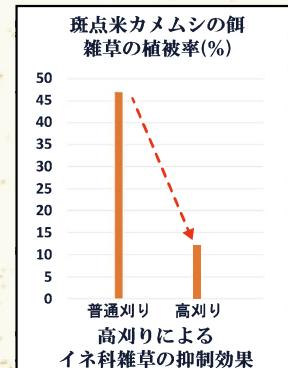


「高刈り」とは、草を通常より5～10cm高く刈ることで、生長点が高い広葉雑草が再生しやすい状態にしておき、害虫を捕食するクモやカエルが増えやすい環境にするというメリットがあります。

また、縦に成長しにくい広葉雑草を残すことでイネ科雑草を抑制し、イネ科雑草を好むカメムシなどの害虫を減らします。

### ◆ 高刈りの効果◆

- ・広葉雑草が広がり、イネ科雑草が減少（草丈抑制）
- ・害虫が減る（減農薬）
- ・草刈り回数の減少（省力・効率アップ）
- ・小石の飛散防止（安全・刃の長寿化）
- ・畦畔法面の流亡防止（災害対策）



## 5. アンケート結果

会場でアンケートをとったところ、下記の結果となりました。

特に人・農地プランの作成や草刈り共同作業の拡大、高刈りについて興味が高いようです。

今後、同封のパンフレット「あぜの草刈り対策」等を参考に、ぜひ取り組んでみましょう。

### 人・農地プラン、農地バンク制度について

(参加者アンケートより)

項目	はい	いいえ
集落で人・農地プラン策定済か	47%	44%
人・農地プランの見直し必要か	24%	16%
人・農地プランの詳しい説明必要か	20%	15%
農地バンク制度の詳しい説明必要か	15%	24%
「いきいき農地バンク方式」検討したいか	14%	26%

### 草刈り対策について

区分	項目	既にやっている		今後やってみたい	
		既にやっている	今後やってみたい	既にやっている	今後やってみたい
作業の省力化	傾斜用草刈機の導入	22%	34%	22%	34%
	高刈りによる回数減	6%	52%	6%	52%
	足場設置による効率化	5%	29%	5%	29%
	草食動物による除草	1%	18%	1%	18%
	抑草剤の散布	11%	28%	11%	28%
体制づくり	被覆植物の植栽（グランドカバー）	3%	23%	3%	23%
	シルバーセンターや集落外への委託	4%	21%	4%	21%
	構成員拡大に向けた交流	6%	23%	6%	23%
	草刈講習会の開催	3%	26%	3%	26%
	草刈隊の編成	13%	31%	13%	31%
	機械作業への非農家の参加	20%	23%	20%	23%
	担い手との役割分担に応じた交付金配分	8%	21%	8%	21%
	草刈り共同作業化の拡大	16%	35%	16%	35%

## 優良事例地区の取組が紹介されました！

本年度の『みどり豊かなふるさと大賞』受賞地区の取組がサンテレビ番組「しごとびと」で紹介されました。



取材の様子

受賞地区各地で番組の取材が行われましたが、今回は野上野（のこの）地区あけぼの会（丹波市）の取材に同行しました。



稲刈体験

あけぼの会は、平成26年丹波豪雨からの復興を契機に、平成27年から都市部の学校等との交流活動に取り組ん

でおり、今年もその一環で開催されました。

当日は、尼崎市より保育園児が稻刈り体験に訪れ、尾松会長より説明があった後、園児たちは田んぼに入り、釜を持って稻刈りを体験しました。普段経験できない貴重な体験に園児は大はしゃぎで、活動組織の方も終始笑顔でした。



内町環境保全組合(豊岡市)

豊かな農村環境づくり分野  
岡農地保全会(上郡町)(中山間)地域づくり分野  
岩戸農地と里山を守る会(市川町)地域農業活性化づくり分野  
野上野地区あけぼの会(丹波市)

日時：令和元年9月12日

場所：丹波市春日町野上野内の農地

対象：尼崎市内の保育園児

人数：約50人（全体約150人）

内容：稻刈り体験

## 活動組織の広域化の状況について

事務の省力化や持続的な活動体制を図る観点から、活動組織の広域化を推進しています。

今年度は佐用町・丹波市で広域組織が2つ設立され、佐用町は兵庫県下初の町全域1組織として設立しています。また、今後も令和2年度に向けて、姫路市や朝来市等で設立予定となっており、その中から姫路市の市全域1組織について、設立までの経緯を紹介します。



第1回広域化説明会

令和元年	6月21日	第1回広域化説明会	・	・	・	・	・	広域化概要説明等
	8月2日	広域化検討会	・	・	・	・	・	広域化の大枠を決定するための意見交換会
	9月4日	第2回広域化説明会	・	・	・	・	・	検討会を経て広域化の方向性を説明
	9月17日	未実施農区向け説明会	・	・	・	・	・	事業及び広域化概要について説明
	10月11日	第1回準備委員会	・	・	・	・	・	協定案、事務局体制、予算配分の検討等
	11月12日	第2回準備委員会	・	・	・	・	・	上記継続審議、役員選任等
	令和2年1月17日	第3回広域化説明会	・	・	・	・	・	準備委員会での決定事項を説明
	3月24日	設立総会	・	・	・	・	・	
	4月1日	姫路農地保全広域協定発足	・	・	・	・	・	現行99組織2,177ha ⇒ 1組織2,299ha 新たに未集落が参加し、面積も拡大

### 主な広域組織の設立状況（令和2年2月末現在）

設立年度	市町名	組織名	単位	事務局	規模(広域化後)	
					集落数	面積(ha)
H28	養父市	高柳広域水土里会	小学校区	自治協議会	16集落	98
H30	豊岡市	コウノトリ育むろっぽう	土地改良区	土地改良区	10集落	356
R1	佐用町	佐用町水土里会	町全域	町	94集落	982
R1	丹波市	神楽広域水土里会	小学校区	集落	3集落	51

## 活動組織の抽出検査について

活動組織の事務の適正な執行と事務能力の向上に向けて、近畿農政局では毎年度、抽出して検査指導を行っています。令和元年は、兵庫県では20組織が対象となりました。対象の活動組織の皆様には、準備から当日の対応までご協力頂きありがとうございました。

各組織2時間程度で、事前提出いただいた資料を基に、近畿農政局担当官から書類の指導や現地での確認等が行われました。また、抽出検査は国と活動組織が直接意見交換できる良い機会となっており、普段皆様が苦労されていることなどを直接確認することができます。来年度以降も実施されますので、是非ご協力ををお願い致します。

下記に検査での主な指摘を掲載します。普段の活動に是非参考にしてください。

### 今回の検査の主な指摘事項（抜粋）

#### 【総会】

- ・総会議事録は必ず作成すること
- ・欠席者へは総会決定事項を必ず書面で周知すること



#### 【実施状況報告書】

- ・計画で〇印のあるものを実施しない場合は備考欄に理由を記載すること
- ・長寿命化のための活動の計画の進捗欄には、5年間のすべての実績を記載すること

#### 【活動記録】

- ・実施した活動は必ず記載すること（金銭の有無にかかわらず）
- ・活動計画書に記載された活動は必ず記入すること

#### 【金銭出納簿】

- ・自治会等、他団体からの寄付があった場合、必ず領収書の控えをとっておくこと
- ・日当の領収書には受領印と受領日を必ず記載しておくこと

#### 【工事発注】

- ・市町の取り決め額以上については、複数業者の見積りを徴して発注すること
- ・見積業者の選定条件を、規約に明記するなど明確にしておくこと（市町の選定している業者など）



### お知らせ

令和2年度からは、農政局抽出検査と並行して、活動組織の事務能力の向上を図る点から、協議会独自で書類確認指導を行うこととなりました。

皆様には準備等お手数をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。  
対象組織については、別途ご連絡します。